



『伐る方向と集める径路』  
 通年コース第八・九回開催報告「間伐、集材」

秋の気配が足早に訪れた伊那。二日目午後は雨のため、次回講座の枝打ちに用いる麻縄のアイ加工となりましたが、初日から二日目の午前中までは間伐とキャタトラ集材

を行いました。野底のヒノキ林では、まず各班で方形のプロットを作り、生立本数の七割を保残木として選定することから始まりました。そして伐出は、退

避路・受け口・追い口・つる、立ち位置・姿勢・チェーンソー保持、水平・深さ・角度・平行・基本通りの安全確実な伐木と。根元から梢まで幹の左側をゆっくりと歩くように、一本一本フルスロットルで幹に沿って枝を伐り、切り口が材に対して垂直になるように回し伐る造材。プラス、

丸太を集めて・積んで・運び出すキャタトラ集材。伐るから出すの一連の流れを考えると、集めて出しやすい伐り方はどんなものかと思いをめぐらすことでしょうか。林道から林分内へキャタトラが走行し、ワイヤーで丸太または全幹を集める、その径路に応じた伐倒するには。集材機械が変わると、径路はどうなるのか。その面白さの一端を感じることが出来たでしょうか。

いずれにしても間伐を終えた林分は、すっきりと気持ちの良いものです。この東向き

の三十年生のヒノキ林は、初日の朝には暗く感じられました。それでも上層樹高が十六メートル、ヘクタール当たりの生立本数が九百五十本で、地位指数が20、相対幹距比もほぼ20という現状でした。早急な手入れの必要性はありませんでした。今回の30%間伐によって、四十年生時でも相対幹距比が19・4、五十年生時のそれでさえ17・6を維持することとなります。樹高成長の良い壮齢の四季に、枝葉の伸びる空間を造るため樹幹を広く保つ作業は、保残木の今後の直径成長をどのようなものにしていくのか、興味を惹かれるところでした。二日間の作業、お疲れ様でした。



追い口は水平に



つるは平行に



前方の枝を払う

今回の内容  
 通年コース 第八・九回  
 9月11日(金)  
 間伐  
 8時30分  
 鳥崎先生の山小屋に集合、講師挨拶、日程説明の後、

9時45分  
 班分け、身支度をして、分乗で野底の現場へ向かう。  
 9時15分  
 現地着。このヒノキ林の現状は、上層樹高が16m・林齢30年・ヘクタール当たり本数が950本で、地位指数20・相対幹距比もほぼ20。今回の間伐率は30%とし、班毎にポール・巻尺・マーキング用のテープを準備して、  
 9時25分  
 プロット設定。生立木の本数を数えて、形質が良いものや樹高の高いものなど約七割の保残木を選ぶ。  
 9時55分  
 伐木造材の準備。隣接木と枝が触れ合っていたりするので、ロープやチルホルでの牽引伐倒の準備をする班も。

10時10分

間伐開始 伐倒木の傾きや枝張り、隣接木の樹冠、集材方向などを考えて倒す方向を決め、牽引の必要性を判断する。ワンタッチラダーで木に登り、ロープやチルホルルのセッティングを終えたら、退避路の確保。エンジンを始動して受け口の立ち位置を決め、チェーンソーを保持。水平伐りと斜め伐りを連続して受け口を作ったら、方向の確認。つるの残す量と伐倒方向を見定め、追い口の立ち位置に入る。水平に伐り進み、つるは平行に残して退避。伐倒した木の造材は、根元から梢に向かって



引き寄せて、積み込んで

左側を進みながら前方の枝を一本一本フルスロツトルで払い、4mに玉切る。

12時10分

現場で各班毎に昼食。

13時10分

各班交代でキャタトラ集材を行う。クローラタイプ的小型林内作業車のキャタトラは、ウィンチと手動のタワーと積載デッキを装備している。保残木に間を通って丸太に近づき、ウィンチで集材。台付けを掛け変えたりしながら積載デッキに積み込んでいく。林内から林道を通り土場へとそのまま自走して運材。伐出の一つの流れを今

日の作業で。

16時15分

作業を終了し、機材を片付けて小屋へ戻る。

16時50分

講師講評、終了、解散。

9月12日(土) 集材

8時35分

鳥崎先生の山小屋に集合。雨が降り出してきたが、講師挨拶、日程説明の後、

8時45分

身支度をして、分乗で昨日の現場へ。

9時15分

どの班も昨日キャタトラ集



自走して運ぶ

12時10分

現場で昼食。休憩中に雨が激しくなってきたので、今日の現場作業を終了し、小屋へ戻って次回の枝打ちに使用する麻縄のアイ加工をすることに。

13時20分

山小屋の薪ストーブに火を入れてたら、麻縄を15mづつに切断し、班に分かれて末端のアイ加工開始。縫られていた三本を15cmほど解いて右手に持ち、本線を左手に持って、右から握りこぶし程度の大きさの輪を作るように、解いた三本の元を本線の上に重ねる。このとき輪が自分の身体の方へくるように持ち、解いた一番右側の一本を本線一つを開いて差し込む。右から二番目の一本を先ほ

材を行ったので、間伐を選択し機材を準備。通年コースでは今日が最後の伐木造材になるかもしれないので、作業をなるべく一人で行ってみる。また、混在しているアカマツや広葉樹の伐倒、かかり木の処理にキャタトラでの根元牽引を行う班も。

ど差し込んだ本線の向こう隣に差し込み、残った三本目は、その向こう隣の線へ。この口差しがうまくいけば、ほぼ出来たようなもの。あとはどれからでもいいので一越し一差しを。

16時

講師総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/安部(貴)さん、安部(英)さん、池中さん、大槻さん、荻上さん、沖永さん、加藤さん、熊沢さん、栗本さん、島谷さん、武田さん、増田さん、村田さん、高玉さん、鷹野さん、水野さん、熊木さん、園田さん

講師/早川講師  
スタッフ/大野、川島、小泉、平林、坂野

### 次回以降の予定

#### 専門コース 第三回開催

10月1~3日(木~土)

早いもので今年度の最終回となります。今回は、富県というところのヒノキ・アカマツを主体とした傾斜林分での伐木造材となります。

基本の復習はもちろん、牽引伐倒や矢を使った伐倒を行います。また、傾斜地での安全確実な造材や枝払いの習熟、かかり木の処理方法も平行して集大成としましょう。

ご希望があれば、ひっぱりだこやキャタトラでの集材も可能です。

三日間ともに、8時30分、鳥崎先生の山小屋集合です。

#### 第十・十一回

10月9・10日(金・土)

#### 見学・枝打ち

一日目は見学。丸太は、その後、どこへいくのか... 午前は、長野県森林組合連合会の伊那木材市場で木材流通の一端を見学。午後は、有賀建具店さんで様々な材や家具・建具を見学させて頂きます。

二日目は特別講師の保料先生による枝打ち講座とキャタトラ集材を予定しています。

九月と同じ現場で、午前中は麻縄と手木でぶり縄を作り、木登り体験と枝打ちを。午後は九月の続きでキャタトラ集材ができればと思います。先生愛用の「両刃の鉈」や「あぶみ」といった道具類も見えます。

服装は、一日目は普段着で、二日目は作業服で。防寒議を忘れずに、麻縄も忘れずに。両日とも8時30分、鳥崎先生の山小屋に集合です。



# リレー通信

## 「世代継承」

青山 克昭



皆さん、こんにちは。今年八月に集中コース夏の部に参加させて頂きました青山です。人生の殆どを東京近郊で過ごし、毎日ぎゅうぎゅう詰めの満員電車で片道四十五分の道のりを通勤する今年四十歳のサラリーマンです。週末は妻と十ヶ月になる息子を連れて公園に遊びに行ったり、近くでショッピングをするといったような典型的な都会生活をしています。私はスズメバチ・クモ・蚊が大嫌いで(好きな人はあまりいない)と思い



ますが(その為、山に入る事があまり好きではなかったのですが、まさかそんな自分が山を好きになり、チェンソーで木を切るなどといった行為をする事になるとは夢にも思っておりませんでした。

### きっかけ

私の両親の実家は石川県輪島市にあり、四ヘクタールほどの少しの山(主に杉の人工林)と一ヘクタール程の畑を所有する昔からの農家です。私の父は、定年になるまで東京で会社務めをし、十年ほど前に定年と同時に母と二人で帰郷し、念願だった輪島での田舎暮らしを始め第二の人生を謳歌していましたが、今年五月に七十歳の誕生日直前に突然病気で他界しました。父の死後、所有林の管理をしなければならなくなったのですが、都会育ちの私に山の管理方法など分かるはずもなく、どうしたものかと途方に暮れていました。現状では所有林からの収入は見込めませんし、毎年固定

資産税を払わなければならないので、思い切った処分するべきではないかと考えたのですが、祖先が育ててきた山をそんなに簡単に

単に手放していいのだろうかという疑問も残り、結局出した結論は、今は必要最小限の手入れをし、山菜や竹の子を採ったりすることで利用価値を見いだし、処分に關しては将来自分達の子孫に判断を委ねるということです。そして、この決断をきっかけに山林管理の勉強を始めるようになり、いろいろと調べ始めた頃にインターネットでKOA森林塾の存在を見つけ、早速集中講座の参加申し込みをしました。

### 初めてのチェンソー

いざ集中コースに参加すると、いきなり今まで触ったこともないチェンソーで木を切ることから始まり、続けて測樹、森林診断及び分析を経て実際の伐採、集材講習などを三日間みっちり体験させてもらいました。“本当に入門コース?”と思うほど内容が濃く、全てが初めての私にとっては吃驚するほど短時間でとても深い経験ができました。

森林塾の講師、スタッフの方々の対応はすばらしく、多くの初心者である私に対してとても優しく丁寧に指導していただきました。そしてスタッフの方々を通じて、技術レベルの高さ、作業安全の徹底、知識の深さ、道具へのこだわり、林業の将来への



夢、そして何より“木や山への愛情”などを感じ取ることができ、とても有意義な三日間を過ごすことができました。

### 今後の課題

今後は今回の経験を活かし更なる勉強を続けながら、山の管理を始めたいと思っておりますが、いくつかの大きな問題が障害になっています。

第一の問題は所有林の所在確認と境界確定ができていないことです。このエリアは国土調査のひとつである「地籍調査」が行われておらず、法務局備え付けの地図も整備が遅れており、境界の確定が十分できておりません。境界が確定していないと、土地の分筆や売買、相続にも影響しますし、そもそも所有林の所在が明確でないと間伐すら思うようにできません。もちろん、

作業道をつくることも出ず効率的な整備もできません。このような現象は日本の至る所で起きています。土地所有者の世代交代の度に自己所有林の所在がほとんど不明確になり、整備されないままの荒れた山が増え続けているようです。この問題は時間が経つほど深刻化し、当時の境界を知る人が減り続けると、いつかは取り返しのつかないことになってしまいますので、国主導で地方自治団体は早急に地籍調査の為の山林境界保全事業のスビードを上げ、今後の日本の山林を守ってもらいたいと願っています。

第二の問題は木材価格の低迷です。国内の木材価格が上がらないため、効率の悪い個人レベルでの山林管理ではコスト割れし、これが山の整備を遅らせる理由になっています。そんな中、先日の日経新聞にこんな記事が出ていました。“国際丸太市場中国が存在感”(2009年9月1日朝刊)という見出しで、中国の丸太需要が急激に増えてきており海外からの丸太の買い付けを増やし、丸太輸入大国である日本の地位が揺らいでいるという内容です。実際にはこの木材需要の高まりを受けて対中価格が上がっているとのこと、これに伴いアジア市場の日本向けの価格

も相次いで値上げしているとありました。もしこのようなトレンドが続けば、日本国内のいわゆる“国産木材”の価値が上がり、林業界に追い風になるのではと思わず少し希望の光を感じました。

### 最後に

今回森林塾で皆様と知り合えたことは、私にとって貴重な財産になりました。皆様のお蔭で山に対する印象が変わり、今ではすっかり山の魅力に取りつかれてしまいました。当面の目標は“マイチェンソー”を持つことと“通年コース”に参加することで、将来は山と関われるような環境で生活ができればいいと思います。KOA森林塾さん、今後もし宜しくお願致します！

### おわりに

萩の花 尾花葛花 など  
こが花 をみなへし また藤袴 朝顔が花

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994



E-mail:  
sh-sakano@koanet.co.jp  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp